

## 正誤表(2020年11月現在)

### 『遺伝子検査技術-遺伝子分析科学認定士テキスト- 改訂第2版』

この度は、上記書籍をご購入頂きましてありがとうございました。  
以下の箇所に関して誤りがありましたので、ここに訂正とともに深くお詫び申し上げます。

頁	訂正箇所	誤	正
9	3.電解質の種類	・・・少量でよいミクロミネラル (Cr、Fe、Cu、I、Fe、Mn、Mo、	・・・少量でよいミクロミネラル (Cr、Fe、Cu、I、Co、Mn、Mo、
(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 ホームページ <a href="https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail655.html">https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail655.html</a> による)			
32	i. 神経・感覚器系 右段 1行目	キヌ、ツチタ	キヌタ、ツチ
82	左段 21行目 見出し	2. 下垂体機能亢進症	2. 下垂体機能低下症
82	右段 20行目～ 項目 「1) クッシング症候群」の 文章 加筆修正後	1) クッシング症候群 クッシング症候群は原因のいかんに関わらず副腎皮質からのコルチゾール産生の増加により引き起こされた病態である。 原因として、下垂体腺腫によるACTH産生過剰、異所性ホルモン産生腫瘍によるACTH産生過剰、および副腎のコルチゾール産生腫瘍がある。このうち、下垂体腺腫を原因とするものをクッシング病と呼ぶ。徴候と症状として、中心性肥満、満月様顔貌、体重増加、易疲労感、筋力低下、高血圧、男性型多毛症、無月経などが高頻度で発生する。検査所見として、血中、尿中のコルチゾール増加、尿中17-OHCSの増加がみられる。また白血球数増加(好中球増加と好酸球低下)、耐糖能低下、低カリウム血症を伴うこともある。	
93	左段 7行目	CqG 配列	CpG 配列
106	右段 下から5行目	サザプロット	サザンプロット
264	左段 16行目	近位尿細管型はH <sup>+</sup> 排泄障害が・・・	遠位尿細管型はH <sup>+</sup> 排泄障害が・・・
321	表1中 8行目	delition	deletion
321	表1中 下から4行目	slant line]( / ), double	slant line]( // ), double
巻末用語解説 8頁【テロメア】の1行目		TTACGG	TTAGGG

【本書での「出生前診断の時期について」の記述について:追記】

妊娠週数の記述において、以下のように記載不統一と思われる箇所があります。

頁	羊水検査	絨毛検査
113	16週以降	10～13週
182	15～17週	10～12週
310	14～16週	9～11週

しかしながら、各記述は、それぞれの執筆者の考えと文献引用に基づき、当該の文脈において、妥当な表現となっています。また、生殖医療の進歩のため、様々な受精妊娠において、一定の基準による妊娠週数の判定が困難となっています。

一方、専門学会の見解が公表されていますので、参考のために以下に紹介いたします。

「平成25年日本産科婦人科学会 出生前に行われる遺伝学的検査および診断に関する見解」では、羊水検査と絨毛検査の実施法とその時期について以下のように示されている。

- ・羊水検査：羊水検査は原則として、妊娠15週以降に経腹的に羊水穿刺を行う。妊娠15週未満に行う早期羊水穿刺や経腔的羊水穿刺は、その安全性が確認されていないことから標準的な検査方法とはいえない。
- ・絨毛検査：絨毛検査を行うための絨毛採取の方法には経腹法と経腔法があり、妊娠10週以降14週までが標準的な実施時期である。また、妊娠10週未満では安全性が確認されていないことから行うべきではない。